

持続可能な社会とは、「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発を進める」社会のことだ。1992年の国連地球サミットではこの考え方を基に宣言が出され、今日の地球環境問題に関する世界的な取り組みの基礎となっている。

では、持続可能な社会とは具体的にどのような社会なのだろうか。低炭素社会、循環型社会、生物多様性という視点から考える。

第一に、低炭素社会が挙げられる。二酸化炭素は温室効果ガスであり、海水面の上昇など環境に大きな影響を与える物質だ。このガスを世界規模で削減する動きがある（京都議定書からパリ協定）。また、企業や個人のレベルでも、生活や活動で排出される二酸化炭素の出所を調べて把握することで削減を目指す、カーボンフットプリントと呼ばれる運動が進行中だ。

第二は、循環型社会だ。これは有限である資源を効率的に利用したり、再資源化して循環させながら利用することを目指している。「リデュース(削減)」「リユース(再利用)」「リサイクル(再資源化)」の3R運動が各地で起きているが、これは地球の資源を次の世代に引き継ぐことを目指している。

第三は、生物多様性が保たれた社会の実現だ。地球上に多様な生物が生存していることは環境が保全されていることの指標になる。また、希少な生物の研究から新たな治療薬が開発されるなど資源としても活用されている。これらが失われることは、次の世代に豊かな環境や知的資源を継承できないことを意味する。

以上のように、持続可能な社会の実現を目指し、様々な取り組みがなされているが、その推進力は私たち一人ひとりが持っている「もったいない」という気持ちだ。ものや労力を「もったいない」と感じる心を育てることも、持続可能な社会の実現に不可欠な要素だと考える。